



# 令和5年度 上志比中学校 スクールプラン

上中教育のガイドライン

40年近くにわたり本校の教育の礎となっている『礼の心』。「人としての生き方」を身につけると共に、「人間関係を築く力」や「自己発信力」も大切と考えます。礼の心を追求させつつ、自己及び他者理解に基づくコミュニケーション能力を発揮できる生徒を育てていきたいと考えています。そのため、「ポジティブ教育」を推進し、「社会適応力」の育成に努めてきたいと思ひます。

また、今まで実践してきた「上中ならではのきめ細かい教育」で基礎基本を定着させ、生徒同士が自分の意見を交換により意見の練り上げを図る「対話的な学習」を展開することで、確実な学力、すなわち「社会で生きる力」を育成していきたく思ひています。

**教育目標**  
求め 鍛え 磨き そして夢実現

**めざす生徒像**  
『礼の心』を追求する生徒  
心身を鍛える生徒  
お互いに切磋琢磨する生徒  
自分の力を発揮する生徒

## 三 気

- ☆ 見る気
- ☆ 聴く気
- ☆ やる気

～「三気」を奮い起こしてほしいという願いをこめて～

**重点目標** “見る気・聴く気・やる気” 気力のある実践

■ **豊かな心を育てる**  
・『礼の心』により自己を見つめ、他者を認める相互理解の心を高めたい

■ **確かな学力をつける**  
・基礎学力の定着の上に、生徒相互の自己研鑽力の向上を図りたい

■ **健やかな身体を育てる**  
・心身ともに健康な生活習慣の形成と体力の向上を図りたい

■ **信頼される学校をつくる**  
・「上中ならではの教育」を進め、保護者や地域の願いを具現化する学校にしたい

幼・小・中の連携：地域の特性を活かした「上志比地区」ならではの教育課程の編成・教育活動の実践

### 具体的な取組

◎「礼の心」を通して自己を見つめ、人へ、物へ、生きていることへの感謝の心を育てる

- ・心のこもった校門での礼、自分の心を磨く無言清掃、感謝していただく無言給食
- ・相手の心に届く、語勢のある返事と挨拶
- ④心を込めて校門での礼をしたと評価をする生徒が95%以上

○個性を伸ばし、自分の生き方を見つける

- ・本音で語り合える道徳の授業の工夫
- ・生徒の能力を見極めた、個性の伸長
- ・生徒の力による学級・生徒会活動や、学校行事。PDCAサイクルの徹底
- ・自分の個性と可能性を意識した将来の目標の設定とそのための努力・過程の重視
- ④自分の夢や目標に向かって努力したと評価をする生徒が80%以上

○レジリエンス教育の推進

- ・自分の感情を知る事による、挫折に負けない強い心の育成
- ④失敗を恐れず、様々な事に意欲的に取り組んだと評価をする生徒が80%以上

◎個に応じた、きめ細かな指導を推進する

- ・支援教員よる気がかりな生徒への効果的なサポートと疑問点への素早い対応
- ・基礎学力の定着(HMT、さわやかコーナー活用)
- ・能力に応じた家庭学習の設定
- ④授業の内容がだいたいわかったと評価をする生徒が80%以上

○お互いに高め合う協働型授業を推進する

- ・話し合いを重視し、意見の深化と自説の再構築を図れる授業構成
- ・生徒が興味を持って取り組める学習課題設定の工夫
- ・ICTを活用した生徒主体の学習活動の充実
- ・教員同士の学び合いによる指導力の向上(校内研修、現職教育、小中連携、中中連携)
- ④授業が楽しく、学習に集中して取り組んでいる生徒が85%以上

◎基礎体力の向上を図る

- ・地域移行を踏まえた、顧問・地域指導者・部員の協働による部活動
- ・目標を定めた「5分間走」「さわやかマラソン」への意欲的な参加
- ④部活動や朝マラソンで基礎体力がついたと評価をする生徒が80%以上

○健康な生活の習慣化を図る

- ・マイカルテと連携した生徒の状況の的確な把握
- ・規則正しい生活リズムの徹底
- ・情報モラル研修の充実と継続的な生徒・家庭への啓蒙
- ・家庭との連携による上中版スマートルールの検証と定着
- ④メディアや通信機器で生活のリズムが乱れていないと評価をする生徒が80%以上

◎学校を保護者・地域に開いていく

- ・学期1回以上の学校開放日の設定
- ・ホームページを充実させ、授業や行事、諸活動の様子をこまめに情報として発信
- ・ふるさと学習等での地域の人材活用
- ・地域の活動への積極的参加と、ボランティア活動の充実
- ④学校の情報を月1回以上は発信したと評価をする教職員が100%

○保護者と緊密に連携する

- ・全校体制での保護者への対応。正確で素早い連絡と相談および適切な家庭訪問の実施
- ・Zoomメディア週間の実施
- ④「学校は信頼できる」と評価をする保護者が85%以上

○いじめについて緊張感をもって生徒と接する

- ・生活ノートやアンケートによる確実な生徒の状況把握と保護者への連絡。外部機関との連携
- ④いじめに的確に対処したと評価をする教職員が100%

